

## 第 11 回 CLA 懇話会の開催に当たって

世話人代表 菅野道廣(九州大学・熊本県立大学 名誉教授)

本懇話会は、非常に多様で魅惑的な生理活性を有する CLA に関する研究と情報の交換を目的とするために設立された会であり、毎年いろんな分野から数多くの興味深い研究発表が行われ、有益な成果を挙げてきております。昨年度の懇話会におきましては、過去 10 年間の研究実績を評価するためにシンポジウムを開催し、改めてわが国におけるこの分野の研究の進展と成果を集約し認識することができました。しかしながら、この間、CLA の利用という面ではほとんど実効を見ることはできていないように思われます。わが国における研究そのものは高いレベルにありながら、もう一步が踏み出せずにいる印象がありました。つまり、「研究成果の実用化」が遅れ、折角の成果が生かされていないことを指しており、研究者は一つの壁を乗り越せないでいると痛感してきたところです。社会的貢献に対する研究者の怠慢と云ったら言い過ぎでしょうか。それとも、企業との連携の未熟さ、あるいは企業が研究成果を読み取れなかったと言うべきでしょうか。少なくとも、現状を打開するためには何らかのコーディネートが必要です。

このジレンマを解きほぐすために、一つの実策として、今回は「CLA の利用」に焦点を当てたセッションを設け、問題点を掘り起こすことにしました。このため、研究発表数を制限せざるを得なくなりましたが、それに見合う以上の「ベネフィット」を期待するのが今回の対応の骨子です。

今回の企画の成果が、どの程度「CLA の市民化」をもたらす役割を果たしてくれるか、確たる根拠なり自信はありませんが、話題を提供される先生方の実績と熱意、そして出席の皆様方のこの方向性への理解が融合できれば、大いなる成果・結論を導きうるのではないかと、夢を膨らませているところです。研究者と企業との連携が不可欠な分野での活動が、一気に花を咲かせることを大いに期待しています。

ところで、CLA の研究はすでに網羅され、世界的に見ても画期的な新知見への期待が希薄な状況になってきているのではないのでしょうか。新しい研究者の参画も余り期待できそうにありません。そして、研究の焦点が CLA そのものよりも他の機能性成分との複合効果に当てられ、主役がはっきりしなくなっている場合も散見されます。さらに最近では、CLN へと展開する動きも見られるようになり、CLA の価値を、かなり広い視点から捉える必要がある状況になってきているようです。そのような背景から、本懇話会としても CLA そのものに限らず、より広い意味での「機能性を有する脂肪酸」を対象とする組織へと発展的に展開していく必然性が生じてきているのではないのでしょうか。そのためには、懇話会の名称を変更することも視野に入れなければならないでしょう。「機能性脂肪酸懇話会」など、適切な呼び名を考える必要があります。このような名称になれば、いわゆる共役型の脂肪酸以外の多種多様な機能性脂肪酸をも対象とすることができ、「仲間」の増加も見込まれ、より広い視野からの意見の交換が可能となることは必定と見込まれます。このような取り組みが、本研究会の転機となると念じて止みません。

最後になりましたが、今回の懇話会の世話をされた長崎県立大学の古場一哲教授、長崎国際大学の山本孝史教授に厚くお礼申し上げます。大変気配りのある素晴らしい環境の中で討論・質疑を重ねることができそうで、大いに期待しております。ご出席の皆様方が、今後の研究や事業の展開に資するよい土産をお持ち帰りできますことを念じています。